

事業名：12 環境に適した漁法開発試験

期 間：H27～H32 年度

予算額：H29 年度 2,155 千円

担 当：増殖推進室（野々村 卓美）

目 的：

近年の夏～秋期の水温上昇や浅海域での漁獲の低迷等、非常に厳しい沿岸漁業の漁業経営の改善に資するため、現在の環境などに適した漁法を開発すること。

成果の要約：

1 調査内容

(1) カレイ類の延縄調査

調査船「おしどり」により、平成 29 年 6 月 29 日に長尾鼻沖と酒津沖、そして 8 月 18 日に賀露沖でそれぞれ水深 100～150m の範囲で水深別に 5 地点で行った（図 1）。各地点に仕掛け 1 式（針 20 本）投入した。餌はホタルイカとオキアミを使い、釣果の比較を行った。なお、6 月調査時に水深 120m 以深で沖向きの流れがあり、仕掛けが沖側にやや流された。

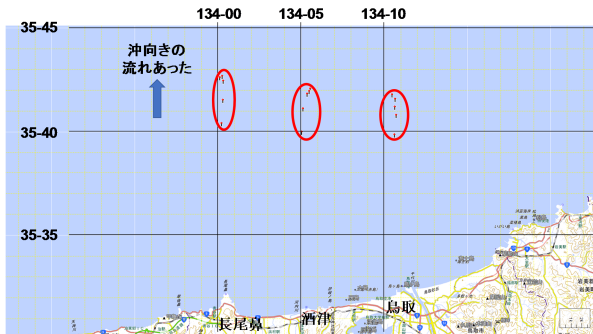


図 1 カレイ類延縄調査地点

(2) サワラ夜間釣り調査

平成 29 年 10 月 26 日、11 月 6 日、12 月 21 日に赤碓沖の水深 60m で行った。漁船 2 隻用船し、水中灯有無による比較を行った。光量は 15kw 以内とした。餌は塩蔵イワシ類を用いて、仕掛けは 7 本針により、1 隻につき 3 つずつ仕掛けを出した。調査時間は漁場までの移動を除き、約 4 時間実施した。

2 結果の概要

(1) カレイ類の延縄調査

長尾鼻沖と賀露沖でカレイ類を釣獲できた。一方、酒津沖ではホシザメが多かった（表1）。水深100～150mの間では、深い方がカレイ類が釣れる傾向が見られた。ムシガレイは釣獲後も生きていた。また、ホタルイカとオキアミのどちらでも釣ることができ、どちらが良いという傾向はつかめなかった。

表 1 カレイ類の延縄釣果

①長尾鼻沖

餌:	長尾鼻沖					平均全長	平均体重
ホタルイカ	100m	120m	140m	145m	150m	(cm)	(g)
ムシガレイ			仕掛けが	1		36	500
ソウハチ			下が切		1	30	260
マトウダイ		1	れた	浮いてい		41	1100
			た模様				
餌:	長尾鼻沖					平均全長	平均体重
オキアミ	100m	120m	140m	145m	150m	(cm)	(g)
ソウハチ	"		"	2	1	21	70
カナガシラ			"	1	1	25	200

②酒津沖

	酒津沖					※仕掛けが壊れ、餌の種別の記録が取れなかった
	100m	120m	140m	145m	150m	
ホシザメ	1	1		1	3	

③賀露沖

餌:	賀露沖					平均全長	平均体重
ホタルイカ	100m	120m	130m	140m	150m	(cm)	(g)
ムシガレイ			2	1尾		28	250
ソウハチ				ばらした	4	23	150
ホシザメ		1				-	-
餌:	賀露沖					平均全長	平均体重
オキアミ	100m	120m	130m	140m	150m	(cm)	(g)
ソウハチ				"	2	26	170

(2) サワラ夜間釣り調査

平成 29 年 10 月 26 日の試験では、ひき縄釣り（サワラ：0～1 本/隻）と同程度のサワラを夜間釣りでも釣獲できたが、11 月 6 日の試験では、ひき縄釣り（サワラ：5～10 本/隻）に及ばなかった（表 2）。また、水中灯は、水深 60m などの深場漁場でも、無くても集魚可能であった。しかし、水中灯があった方が、ヒラマサやハマチなどの集魚力が高くなる感触があった。

表 2 サワラ夜釣りの釣果

日時	船舶	漁場	尾数					備考
			サワラ	サゴシ	ヒラマサ	ハマチ	マサバ	
H29 / 10 / 26 18:00～23:00	A丸	赤碓沖 58.9～60.4m	2	36	0	2	3	・底:砂地 ・アカヒラ2尾
	B丸	赤碓沖 61.4～61.5m	0	26	4	13	2	・底:砂地 ・アカヒラ2尾
H29 / 11 / 6 18:00～21:00	A丸	赤碓沖 63.2～63.7m	0	2	0	0	5	・底:砂地 ・月夜 ・シロサバ フグ2尾
	B丸	赤碓～御崎沖 60.2～63.7m	1	2	0	0	16	・底:砂地 ・月夜

成果の活用：

・カレイ類の延縄調査の結果は、平成 30 年 3 月 7 日に漁業者お役立ち情報勉強会「とと塾」で紹介し、普及に努めた。また、サワラ夜間釣り調査結果は、漁協等へ報告し、導入の検討を行った。

関連資料・報告書：

該当なし